

## NPO パートナー協働事業 事業終了報告書

団体名 南相馬&杉並トモダチプロジェクト

代表者名 狩野菜穂

### 1. 事業名

南相馬&杉並の子どもたちによる音楽劇復興プロジェクト

### 2. 事業カテゴリー

教育、文化、エンターテインメント

3. 事業期間 2019年12月22日～2020年4月9日 (98日間)

### 4. 契約金額

500,000円

### 5. 担当者名

狩野菜穂

### 6. 事業目的

南相馬と杉並の子どもたちの歌と踊りを通じた交流の継続と、アーティストの輩出を目指し、原発の影響を受ける地域に「夢の種」をまき続けること

### 7. 事業の成果

福島県南相馬市と東京都杉並区の子供達が、300km離れた場所で同じ歌、同じダンスを練習し、通年かけて交流を重ね、同じステージに上がり舞台を開催する。そのステージに向かって離れた場所でレッスンを続け、エンターテインメントを通じて人間性を磨き、東日本大震災の被災地として復興を目指す南相馬から、新しい文化の花を咲かせることが目的でした。しかし今回の2月の公演は、コロナウィルス感染の拡大の影響を受け、公演開催の3日前に舞台の中止・延期を決断。それまで公演のために頑張ってきた子供達やスタッフ、南相馬杉並双方の保護者の皆さんが、大変な悔しい想いをしました。また多くの支援者、協力者の皆様にも大変申し訳ない想いでいっぱいです。そのため、最後に南相馬と杉並、それぞれの場所で公開最終稽古（ゲネプロ）を開催しました。本来であれば、一つの舞台でともに歌い、踊り完成するはずだった曲は全て、未完成のまま、2箇所でのゲネプロを敢行。

関連動画：トモダチプロジェクト 第6回本公演 ゲネプロ2箇所編集 <https://youtu.be/j2A7XIipKVw>  
「イメチェン！」 <https://youtu.be/hQaoEItPsdK>

やっと憧れの曲のセンターを勝ち得た、杉組のキャストは南相馬のゲネプロには行けず、最後のゲネプロはセンター不在のままステージになりました。けれどその様子は、「また必ずこの曲を、みんなで完成させるんだ」という想いを強くさせました。マイクも、舞台装置も、照明もない状況で元気に歌い踊る彼女たちの姿は、世界がどんな状況に変わったとしても、笑顔で進む姿が一番素敵だということを感じさせてくれます。また念願の主役を勝ち得たキャストは、「このままでは終われない。必ずこの舞台はもう一度みんなで完成させたい」と強く決意をし、緊急事態宣言下の状況でも、家でレッスンやトレーニングを重ねています。震災を経験し、それを乗り越えて来た南相馬の方々の知恵と覚悟が、今回の公演延期の判断も後押しをしてくれました。その決断は、英断であったと、いまは思います。また公演の延期後もレッスンの継続が難しくなる中、それでも子供達と講師、スタッフは、オンラインや、動画作成などを通じて離れた子供達とコミュニケーションを取り、レッスンを継続させる努力をしています。やっと実になりはじめた本事業を、この状況下でその灯を消さないように、現在もスタッフ一同知恵を絞り、頑張っています。

東日本大震災を機に始まった本事業が、いままた違う局面での苦境に立たされ、ここからさらに強い意志を持って、エンターテインメントを通じて、前向きな心持ちを持てる子供達を育成して行きたいと、強く願っています。

## 8. 事業種別（コンポーネント）ごとの成果

- (1) コンポーネント① 本公演は開催できませんでしたが、それまでにこの舞台を製作する費用はかかりました。収支決算報告については別紙参照。

舞台に向けて、300kmを何度も往復し、講師・スタッフなどが製作に奔走しました。

子供達も、離れた場所で同じく練習を重ねる仲間達との協力意識を持ちながら、一つの作品に向かって努力を重ねました。その経緯に得たものは、たとえ舞台が開催できなかったとしても、ずっと残るものだと思います。

- (2) コンポーネント②

舞台の製作に向けて、練習時から南相馬と杉並と行き来し、様々な段取りを重ねてくれたスタッフ達に、公演は開催できませんでしたが、謝金を支払いました。ボランティアのような金額で尽力いただいていることに、大変胸が痛みますが、皆が同じ目標を持ち、時間を割いていることで、本事業が敢行されたことに、大変感謝しています。子供達の心のケアなども、しっかりしてもらいました。

- (3) コンポーネント③

舞台の公演まで重ねたレッスン場所の場所代や、現在の南相馬での事務所拠点の運営・維持費など、本事業の間にかかった経費に、あてさせていただきます。今後も事業を継続していくため、ランニングコストはかかりますが、この状況下でどうにかして経費を捻出し、本事業を継続していけるように努力したいと思います。

## 9. 事業から得た学び、教訓等

公演の延期を決定するまでに、たくさんの保護者の皆さんと話し合い、杉並、南相馬の交流がとても密接になっていて、今回の決定をとても悔しいと感じました。南相馬の保護者も、最後まで杉並に行くことを諦め切れず、どうにかして公演を開催できないものかと考えました。しかし、南相馬が震災後に受

けた「風評被害」の経験から、子供達や当団体が、公演を開催したことでコロナウィルスの影響を受けることを懸念する声が上がりました。実際に、2月20日以降の頃のウィルスの影響を考えると、あの時にギリギリの状態と判断させていただけたことは、結果として、英断であったと思います。

「座・高円寺」での公演はできませんでしたが、その代わりに、2月21日に杉並組のみの最終稽古を、杉並第8小学校の体育館にて開催させていただきました。2月23日には、南相馬市小高区の「浮舟会館」にて南相馬組のみの通し稽古（ゲネプロ）を開催。学校の先生や、保護者の方々、協力してくださった方々が急遽集まってくださり、衣装をつけての最終稽古ができたことは、子供達にとってはとても嬉しく、大変感謝しています。しかし、杉並組・南相馬組両方が揃って完成する舞台ですので、そこに双方のメンバーがいないことで、余計に寂しい気持ちも募りました。本プロジェクトが真の心の交流を基盤になされていることを、痛感する時間にもなりました。

#### 10. 協力体制の構築

杉並区と南相馬、双方で、本事業を広く認識してもらえるきっかけになりました。これまで、杉並区からの協力体制は薄かったですが、今回の取り組みにより、杉並区からの協力体制が大きくなり、南相馬との連携も強まったように思います。継続して本事業を続けてきたことで、信頼を積み重ね、民間での地域間交流での成果を認められた形になり、今後もこの事業を継続させ、目に見える成果を上げていくことが重要だと感じました。新聞の全国紙や、ラジオテレビへの出演を通じて、幅広く本事業を認識してもらい、震災をきっかけにいまだに南相馬が復興の途上にあり、新しい文化の成長をみなで見守る姿を伝えられたことは大きかったです。

#### 11. Civic Force との協働について

メリット：新しい出会いをいただき、いま私たちの事業に足りないものなどを教えていただきました。

スタッフや、運営の体制について、今後改良をしていかななくてはならない点など、客観的な視点からアドバイスをいただいた参考になりました。

また資金的炎上をいただいたことで、事業の運営を継続させることができたこと、大変感謝しています。

デメリット：デメリットについては特に感じていません。今後とも、末長く協働体制がいただけたらと願っております。